

アフリカのコメ振興に向けた 水田営農システムの遠隔技術支援：



佐賀大学農学部¹、¹⁸⁰JICAカメルーン²

1. 背景

- コメの需要約72万トンのうち、約8割を輸入に依存しており、自給は16万トンに留まる(FAO、2015)。
- CARD(アフリカ稲作振興のための共同体)イニシアティブによるアフリカにおける稲作振興(コメ生産倍増)。

2. 協力概要

- 陸稲と水稲双方の種子生産、栽培、収穫後処理、販売に至る一連の技術支援を通じて、国産米の増産と品質向上を図る。



3. これまでの成果

- フェーズ1 (2011年～2016年): 陸稲対象。75トンの種子生産・配布。計1万人以上の農家への研修実施。
- フェーズ2 (2016年～2021年): 陸稲及び水稲対象。水稲種子の純化による品質・生産量の向上。4千名以上の農家への研修実施。
- 中部アフリカ諸国への広域協力の開始





- 「アフリカのミニチュア」(多様な気候・植生・民族・言語)。
- 二言語圏(仏語圏でも比較的英語が通用)。
- アマゾンに次ぐ世界第2位の熱帯雨林「コンゴ盆地」を擁する生物多様性の宝庫。
- 石油や鉄鉱石など鉱物資源に加え、木材、コーヒー、カカオ、バナナなど多様な農林産物を輸出。
- 中部アフリカの玄関口。
- 中部アフリカ経済を主導。

国産米振興



1. 国別研修の実施目的

- カメルーン農業省幹部等の国産米振興に向けた理解の深化。
- 種子生産、収穫後処理工程、農業機械、灌漑構造など、日本における稲作の歴史等を学習。

2. 受入機関

- 佐賀大学農学部、佐賀県農業試験研究センター、JAさが等

3. 受入実績（隔年で10～11月頃に実施）

- 2013年（1名）、2015年（4名）、2017年（4名）、2019年（10名）




アフリカのコメ振興に向けた水田営農システムの遠隔技術支援： 佐賀とカメルーンのデータ駆動型農業の地域実装

目的：

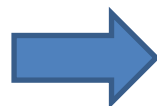
カメルーンの稲作振興を支援するため、
佐賀大学にeFARMを設置し、

海外圃場における地域実装&技術支援

来年度の農水省予算「情報通信環境整備対策」:

 スマート農業に有効利用するための附帯設備の整備

方法：
佐賀大学にeFARMを設置



海外園場における
地域実装&技術支援

サイバー空間

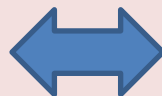
スマートロジック (株)



データ取得
@カメルーン



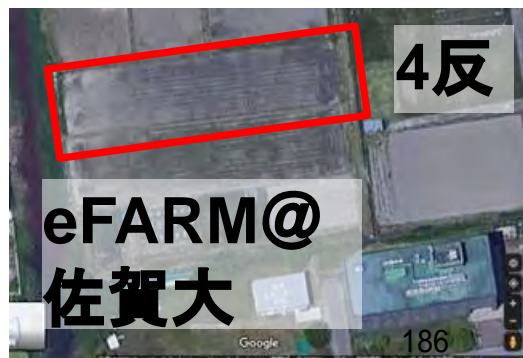
クラウド
サーバー



センサー 子機

総合データ
気象データ
土壌環境
水位・水質
画像

eFARM@ 佐賀大学



水田の様子
@ 熱帯作物学研究室



期待される成果：

**eFARMのデータのやり取りによる海外圃場実習や
国際交流**

フィジカル空間



**国際交流による
学生の人材育成**



**米振興に向けた
理解の深化**



国産米の増産と品質向上

カメルーンのコメ品種栽培